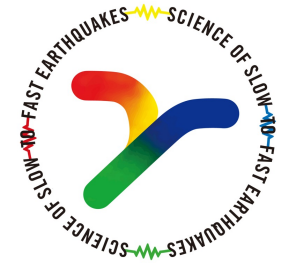


対コロナ禍 海外渡航状況 アンケート by Slow-to-fast地震学 若手・ダイバーシティ



領域内の大学・研究機関のコロナ禍対応状況を、
組織ごとに調査。

- 回答者：大学（10法人）と国立研究開発法人（5法人）計15法人の研究者（プロパー）個人
- 回答期限：2022年4月30日
- 実施者：学術変革領域A「Slow-to-Fast地震学」（若手ダイバーシティ推進委員会）
- 回答方法：15機関から1人ずつ回答者を選定し、メールでヒアリング

回答結果：大学or国研で異なる傾向。

現在、大学は概して海外渡航可能※1

国研は海外渡航不可に近い状況※2、所管省別に対応が分かれる。

※1学生との違いはあり。※22021年4月末の時点

アンケートでの調査内容

1. 所属組織形態

国研 or 大学

※「自由にできた」：コロナ禍以前と同様の手続きで出張することができた。
「制限があるが可能」：理由書の提出など一定のチェックが入るが、出張することができた。
「できない」：「真に必要な場合に限る」など、ほぼ出張することが不可能であった。

1. 海外渡航状況について: 4つの選択肢のうち1つを残す形でお答えください。

- 2020年度4月～9月 (自由にできた ・ 制限があるが可能 ・ できなかった ・ わからない)
- 2020年度10月～3月 (自由にできた ・ 制限があるが可能 ・ できなかった ・ わからない)
- 2021年度4月～9月 (自由にできた ・ 制限があるが可能 ・ できなかった ・ わからない)
- 2021年度10月～3月 (自由にできた ・ 制限があるが可能 ・ できなかった ・ わからない)

1. 現在'(2022年度初め)の所属組織の状況

- 国内出張: (自由にできる ・ 制限があるが可能 ・ できない ・ わからない)
- 海外出張: (自由にできる ・ 制限があるが可能 ・ できない ・ わからない)
- フィールドワーク(国内): (自由にできる ・ 制限があるが可能 ・ できない ・ わからない)
- フィールドワーク(国外): (自由にできる ・ 制限があるが可能 ・ できない ・ わからない)

4. (自由記述) 雑感等があれば



大学 10校

※2021年度後半より、海外渡航はほぼできる状況。

過去（海外渡航）	自由にできた	制限があるが可能	できなかった	わからない
2020年度4～9月		0000	000000	
2020年度10～3月		0000000	000	
2021年度4～9月		00000000	00	
2021年度10～3月	0	00000000		

現在(2022年4月末)	自由にできる	制限があるが可能	できない	わからない
国内出張	0000000	000		
海外出張	0	000000000		
Field work(国内)	000000	000		0
Field work(海外)	0	00000000		0



国研 5機関

※今も海外渡航ができないところが半数（21年4月時点）。
 所管省庁がにより、対応が明確に異なる。
 海外学会参加不可だが、研究所のミッションに関わる調査や
 フィールドワークに関わる渡航は審査の上、可能な機関も。

過去	自由にできた	制限があるが可能	できなかった	わからない
2020年度4～9月	0		0000	
2020年度10～3月	00		000	
2021年度4～9月	00		000	
2021年度10～3月	00		000	

現在(2022年4月末)	自由にできる	制限があるが可能	できない	わからない
国内出張	0000	0		
海外出張	00		000	
Field work(国内)	0000	0		
Field work(海外)	00	0	00	

